

大豆畑への侵入が危惧される ニシキアオイ

農研機構中央農業研究センター
澁谷 知子

Anoda cristata (L.) Schlttdl. アオイ科ニシキアオイ属
一年生

ニシキアオイは、ワタやダイズなどの世界的な夏作物の強
害雑草である。日本では今まで注目されていなかったが、ダ
イズの収穫期に青々として開花結実をしている実態が見つ
かった。減収とともに収穫物に混入すると汚損粒の原因とな
ると考えられるため、早期発見と早期対策が必要である。ま
た、畦畔等の圃場周辺でも発生しており、発生期間と生育期
間が長いこと、圃場への侵入に警戒する必要がある。

■分布

メキシコ原産で、温帯から熱帯に分布している。アメリカ
での分布域を勘案すると、日本のほとんどの地域で生育可能
と考えられ、関東と九州で圃場内あるいは畦畔での発生が確
認されている。

■形態

茎は直立して50～100cm程度、分枝が発達し、表面に
毛が生えている。葉は互生し、三角状ほこ型で対の大型鋸
歯と不揃いの小型鋸歯があるが、生育初期は切れ込みが浅く、
生育が進んだ上部葉は、切れ込みが深くなることが多い。葉
の両面に毛が生え、葉身の基部が葉脈に沿ってしばしば赤色
となる。花は薄紫色で葉腋から花柄を出して単生する。がく
は5裂し、星形となる。果実は10～20個の分果で熟すと
黒色になる。種子は短毛があり、腎臓型で褐色あるいは黒色、
硬実によって休眠している。

■雑草としての情報

関東地域では、4月下旬から11月上旬まで出芽が見られ
る。分枝を出しながら生長し、開花・結実は8月下旬から
11月下旬まで降霜によって枯れるまで続く。なお、4月下
旬に出芽したものは6月に一時的に開花結実し、再度8月
下旬から開花する。開花・結実が開始しても水分が高い状態
が維持され、草丈や分枝を伸ばして生育を続ける特徴がある。

深さ5cmに埋土した種子の生存率は3年間で約25%に
低下するが、8年間経過してもそのまま維持されたという報
告がある。大豆作において12本/m²の密度で約43%減収
するという報告がある。



収穫期のダイズ畑で開花結実するニシキアオイ



果実



畦畔でも生育



葉は三角状ほこ型

■大豆作における防除に関する情報

種子は硬実によって休眠しており、土壌処理剤の効果はあ
まり期待できない。

大豆生育期にはベンタゾン液剤の散布ができるが、アメリ
カでは草丈8cmより小さい段階で散布することが勧められ
ている。発生期間が長いので、後発生対策が必須で、除草剤
や機械によって体系防除をする必要がある。さらに降霜等で
枯れるまで水分が高い状態が維持されるので、ダイズ落葉期
に残存している場合は非選択性茎葉処理剤や手取り等で防除
し、収穫物への混入による汚損粒発生を防止する必要がある。

種子の寿命が長いことから、一度種子を落とすと防除困難
であるため、警戒と侵入防止、早期発見、早期対策が重要で
ある。

■参考文献

- Puricelli, E. *et al.* 2003. Spurred anoda (*Anoda cristata*) competition in narrow- and wide-row soybean (*Glycine max*). *Weed Technology* 17, 446-451.
- Puricelli, E. *et al.* 2005. Seed survival and predation of *Anoda cristata* in soybean crops. *Weed Research* 45, 477-482.
- Solano, F. *et al.* 1976. Germination, growth, and development of spurred anoda. *Weed Sci.* 24, 574-578.
- 竹松哲夫・一前宜正 1993. *Anoda cristata* Schlecht. ニシキアオイ「世界の雑草II」全国農村教育協会、東京、pp.115-118.
- USDA ホームページ <https://plants.usda.gov/core/profile?symbol=ANCR2>